

2. 前回の出席率 会員38名 出席28名 欠席10名  
他クラブ出席9名 計37名 97.37%
3. 他クラブ状況 函館R.C 98.24% 函館東 92.11%

＊卓話 “航空保安に就いて” 函館空港長 古藤典義氏

昭和36年函館空港設計の青写真はダグラス3型(DC3型)を基準と致しましたので全長1,200米、巾30米のスペースでは大型化して行く今後の基格には無理なので昭和42年に空港整備5ヶ年計画の指定を受けて現在は滑走路は2,000米、幅は300米、総面積33万坪の空港に致すべく努力致して居ります。完成目標は昭和46年度迄として居りますが、これが完成されますとボーイング727が導入出来、函館～東京間は現在の半分1時間で行く事が可能であり、ボーイングの着陸出来るのは千歳空港よりない北海道にとつて非常な力となります。特に函館は北海道の表玄関として名実共に伸びる事になると存じます。

航空保安には有視界飛行と計器飛行の二種があります。パイロットは30分前に飛行計画を管制塔に提出し、管制塔は国内事情を調べて許可を与えます。それに依つてエンジン始動、所定滑走路ラインに待機し最後の離陸許可を受けて離陸します。青森-秋田-山形-羽田まで誘導します。

航空保安の80%は無線施設であります。各飛行場には無線標識局があり電波の灯台の如く無指向性でありますので、ラヂオレンジビーコンで電波の道を造つて指向を与え、その航路を外れると変つた音を発信する事により進路の安定を期す様になつて居ります。更に絶対的安全設備としてはILSと言ふ計器で残念ながら現在の函館空港にはありません。これは視界の悪い時でも着陸出来る装置であります。これは水平電波と垂直電波を出して、その交点を通つて降下すれば安全着陸すると言う器機です。更に一つG.C.A.と言うのがありますが、これは管制塔から誘導する無線電話装置であります。斯様に装置すれば、現在雲高700米、視界1.6キロでないと着陸出来ないと言う不便もなくなる次第で、函館空港も5ヶ年計画が完了すれば装置される事になります。

最後に飛行機の事故の問題ですが、飛行中の事故は皆無に近い記録が出て居ります。殆んどは離着陸で特に着陸に事故が多い様です。然しこれも現在では空港の整備で全く発生して居らず安心して御利用の程を御すめ申します。

The Weekly Report of Hakodate North R.C



通算第217号

1968-6-12

マリクラブ

第202回例会

例会場 函館拓銀ビル

例会日 毎週水曜日

12.30~13.30

本日のプログラム

十勝沖地震のその後

青函船舶管理局長

笹尾昇氏

- ＊司会 俣野会長 米 斉唱 我等の生業
- ＊ゲスト 相馬宏二氏(函館ドック生産技術課長)  
ミス。セリーン。プロレストフェルト嬢  
川西先生(函館遺愛高校校務主任)
- ＊ビジター 小松清君(小樽南、保存食料品製造)  
相馬哲平君外14名(函館) 本間竹松君外5名(函館東)

＊会長報告

1. 交換学生ミス。セリーン嬢が1年間の留学を終了し本月20日に帰国するため本日挨拶に参りましたので記念品を贈答致します。
2. 病氣入院中の水上会員が元氣な姿でカム。バック。健康で益々お元氣で活躍される事を祈ります。
3. 交通指導車に対しスピーカーを前回寄贈致しましたところ、本日函館交通安全協会より感謝状が参りましたので御知らせ致します。
4. 外山会員が高松R.C銀座R.Cのバーナーを持つて参りました。

＊ミス。セリーン。プロレストフェルト嬢挨拶

日本の家庭、文化の實際に接し、色々と勉強出来ました。特に2ヶ月毎に私を御世話くださった五つの御家族の方々に大変心あたたまる待遇を受けました事は、アメリカに帰つても忘るることの出来ない思い出となるでしょう。

美しい国、日本の印象を母国のたくさんの人々に伝え、両国の親善に尽したいと存じます。只今は記念品として日本の扇……綺麗な踊りの扇を頂きたい事は嬉しくて嬉しくて堪まりません。日本のロータリーの皆さん、色々と有難うございました。

＊ニコニコ。ボックス

1. 水上会員 全快されて、おめでとうございます。



8号  
968-6-19  
ークラブ

第203回例会

例会場 函館拓銀ビル  
例会日 毎週水曜日  
12.30~13.30

本日のプログラム

深瀬新会長の挨拶 その他

ボックスに全快祝として一封、厚く御礼申します。

＊ 出席報告

1. 本日の出席 会員39名 出席32名 欠席7名
2. 前回の出席率 会員39名 出席33名 欠席6名  
他クラブ出席3名 合計36名 92.31%
3. 他クラブ状況 函館R、C 94.64% 函館東 94.74%
4. 5月平均率 函館R、C 93.92%  
函館東R、C 93.12%  
函館北R、C 95.79%

＊ 卓話

「最近の造船技術の進歩について」

函館ドック生産技術課長  
相馬宏二氏

現日本の造船業は新聞その他で御高承のとうり、世界一を12年間独占して居り本年で13年目であります。昭和31年175万トンを建造以後上昇を続け、一昨年は670万トン、昨年は700万トンであります。造船内容は昭和30年前後は6割が国内用、4割が外国向け。昭和40年を契機として国内船が4割から3割5分に低下し、外国船が6割~7割程度を占め、世界60ヶ国を相手として居り造船王国日本として世界に雄飛して居ります。

日本造船界は戦前軍艦を建造した優秀な技術を戦後民間に全部投入した事と、戦前から一流に近い溶接技術の高度の研究の結果であります。これが昭和30年の朝鮮動乱。スエズ動乱に依る船腹不足に加え、西欧の建造能力はピークとなり、日本に発注となつて実力が世界に紹介されました。

日本技術陣はブロック建造法を考え出してイギリス造船界を脱落させ、昭和38、9年より超大型船の建造に移り、専用船が現在の大半を占有して居ります。最近ではコンピューターを工作技術を利用して技術革新を行ない、電子写真を用いて鉄板に大きくラインを引伸ばし電子焼付けを行なつて居ります。現在は船の内部装備したブロックを造り、継ぎ合わせると船が出来上がるとか、ワンマンコントロール化も研究されて居りますが、斯様な研究が各々造船会社の技術者が自己の会社の枠外で技術交換、研究をなし、或る方法が考案されると、直ちに発表して実用されると言う事が世界のトップに行く大きな要素の一つとも思考されます。

＊ 司会

俣野会長

＊ ゲスト

笹尾昇氏 (青函船舶鉄道管理局長)

＊ ビジター

畑田英明君 (九州佐世保南C、食料品小売)  
金井辰雄君 (富山南C、酒)

秦良平君他13名 (函館) 鈴木武二君 他11名 (函館東)

＊ 幹事報告

1. 今晚(19日) P. M6時より、入川に於いてアセンブリーが行われますので、多数の出席を望みます。
2. 親睦委員戸栗君が拓銀主催大沼カントリークラブに於いて、Bクラス優勝おめでとうございます。尚、参加人員は100名でした。

＊ ロータリーだより

1. 江差R.C 6月21日の例会は創立記念例会として、18時半(於松月)開催されます。
2. 小樽R.C 6月25日の例会は、期末会員懇親会として、17時半(於ニューメンバー)開催されます。
3. 釧路R.C 6月27日例会は、18時(於三輪ビル)と変更になりました。

＊ 出席報告

1. 本日の出席 会員40名 出席34名 欠席6名
2. 前回の出席率 会員40名 出席32名 欠席8名  
他クラブ出席5名 合計37名 92.5%
3. 他クラブ状況 函館R.C 93.72% 函館東R.C 92.11%